



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久 (APIR 研究統括)

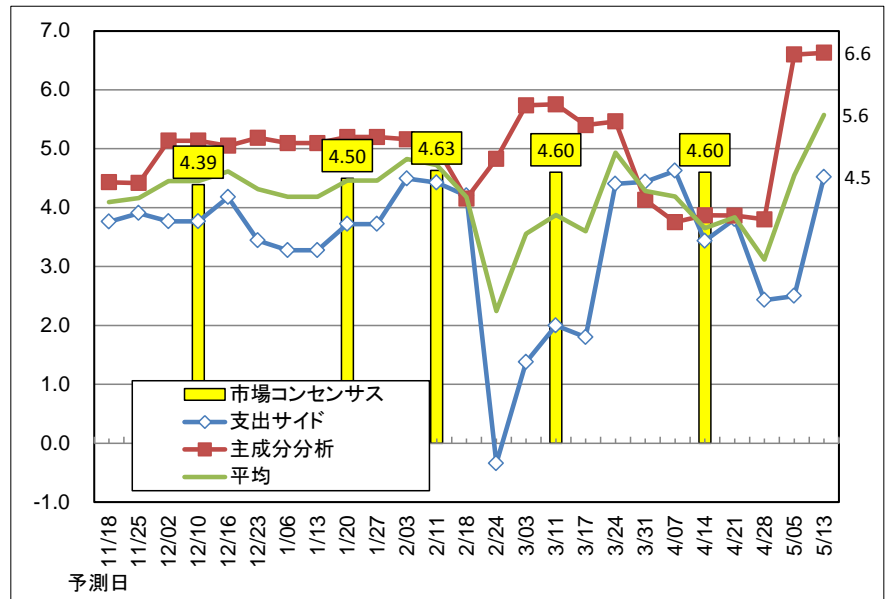
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail: inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2014年5月13日)

ポイント

- ▶今回更新されたデータは、4月の景気ウォッチャー調査、3月の消費総合指数、景気動向指数(速報値)及び国際収支状況である。
- ▶15日に1-3月期GDP1次速報値が発表されるため、今回が同期の最終予測である。
- ▶3月の消費総合指数は前月比+4.8%上昇し2ヵ月ぶりのプラス。結果、1-3月期は前期比+2.3%と大幅拡大。駆け込み需要の影響が大きい。
- ▶3月の経常収支(季節調整値)は3ヵ月連続の赤字。1-3月期の純輸出は引き続き成長を押し下げている。
- ▶今週(5/13)の支出サイドモデルは、1-3月期の実質GDP成長率を前期比年率+4.5%と予測。実質民間最終消費支出の予測値が大幅上方修正、純輸出も小幅上方修正となったため。
- ▶1-3月期は純輸出が前期に引き続いて縮小するが、内需が駆け込み需要の影響で大きく拡大する。結果、13年度の成長率は+2.2%と予測する。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2014年1-3月期(%, 前期比年率換算)



<大幅な駆け込み消費が純輸出の落ち込みを相殺し、1-3月期の実質成長率(最終予測)は+4.5%>

今回更新されたデータは、4月の景気ウォッチャー調査、3月の消費総合指数、景気動向指数(速報値)及び国際収支状況である。これらのデータは、民間最終消費支出及び純輸出の予測に影響を与える。15日に1-3月期GDP1次速報値が発表されるため、今回が同期の最終予測である。

3月の消費総合指数は前月比+4.8%上昇した。2ヵ月ぶりのプラス。事前予測を大幅に上回った。結果、1-3月期は前期比+2.3%と大幅拡大。駆け込み需要の影響が大きい。すでに発表された同期の全世帯実質家計消費支出は前期比+3.8%拡大したことから明らかである。

3月の経常収支は1,164億円と2ヵ月連続の黒字となったが、黒字幅は前年比-90.9%大幅縮小した。第一次所得収支の黒字幅は拡大したが、貿易・サービス収支の赤字幅も拡大したため。季節調整値の経常収支は-7,289億円と3ヵ月連続の赤字となった。1-3月期の純輸出は引き続き成長を押し下げている。

4月の景気ウォッチャー現状判断DIは前月比大幅低下した。2012年11月以来の低水準となった。一方、景気の先行き判断DIは同+15.6ポイント上昇し5ヵ月ぶりの改善。夏場にかけて景気回復を見込んでいるようである。

今週(5/13)の支出サイドモデルは、1-3月期の実質GDP成長率を前期比+1.1%、同年率+4.5%と予測。先週の予測(+2.5%)から大幅上方修正。実質民間最終消費支出の予測値が大幅上方修正、純輸出も小幅の上方修正となったためである。1-3月期は純輸出(前期比-0.5%)が前期に引き続いて縮小するが、内需が駆け込み需要の影響で大きく拡大(前期比+1.6%)する。結果、2013年度の成長率は+2.2%(先週:+2.1%)と予測する。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
 ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
 ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690